拓水

TAKUSUI
No. 662

12
December. 2011

発行　㈶兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

「漁師さんのおさかな教室」で大きなエビに驚く園児達（明石市 土山保育園）

Report
平成23年度 兵庫県水産賞発表 ～3名の方が受賞～

コラム
TPP交渉参加は一次産業の崩壊を招く!!

軽油引取税免税措置、3年延長・A重油免税還付措置、2年延長へ

この度、軽油引取税免税措置とA重油免税還付措置の期間がそれぞれ、3年と2年、延長される見込みとなりました。
JF全漁連をはじめとするJFグループは、最終目標が免税措置恒久化の実現にあり、さらに運動展開を図ります。

県農林水産業の功労者表彰
“平成23年度兵庫県水産賞”受賞者決定

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の３賞表彰式が去る12月2日(金)、県公館(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF相生・岩本健藏さん(63)、JF浅野浦・河野秀二郎さん(56)、JF但馬・竹中和久さん(69)の３名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事より表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

受賞者の皆様(左から河野秀二郎様ご夫妻、岩本健藏様ご夫妻、竹中和久様ご夫妻)

氏　名	所　属	功績内容
岩本　健藏	JF相　生	カキ養殖の振興と漁場環境の改善
河野 秀二郎	JF浅野浦	資源管理型漁業の推進とノリ養殖の経営安定
竹中　和久	JF但　馬	沖合底びき網漁業の発展と漁協経営の安定化

(敬称略)

第36回通常総会を開催

JF兵庫漁連

12月8日(木)、JF兵庫漁連は明石市内のホテルにおいて第36回通常総会を開催しました。まず、永年勤続者表彰が行われ、漁協・系統団体役職員の受賞者に対しJF兵庫漁連　山田隆義会長から表彰状と記念品が贈られました。総会に入り山田会長は「この1年を振りかえると、日本海のカニ、内海側のノリ、イカナゴなど漁模様は芳しくなかった。こうした中、豊かな海を取り戻し、若い漁業者が生活できるような環境作りに県とともに力を入れている。今後とも会員各位のご理解、ご協力を頂き、課題の解決に努めたい。」と挨拶され、議長にJF東二見　岸　利夫組合長が選任され議案審議が行われました。提出された7議案はすべて原案通り承認されました。

(詳しい内容は、次号でお伝えします。)

総会のあと、名城大学大学院教授 鈴木輝明教授から「豊かな漁場の再生について」と題して記念講演が行われました。三河湾の干潟、浅場が湾全体の魚介類に及ぼす影響やメカニズムについて分かりやすく講義があり、参加者は熱心に聞き入り、講義終了後には多くの質問がありました。

永年勤続表彰(役員25年)を受ける西岡 勇組合長(JF炬口)

会場の様子

鈴木教授による講義

「姫路食博2011」に出展！ ～「B-1グランプリin姫路」と同時開催～

JF兵庫漁連広報部

11月13日（土）・14日（日）に姫路市で開催された「B-1グランプリin姫路」と同時開催された「姫路食博2011」に、JF兵庫漁連が出展し、新名物の「明石だこカレー＆コロッケ」を販売するとともに、兵庫の水産物のPRを行いました。

イベントは両日ともお天気にも恵まれ、来場者は2日間で51万人を超える過去最高の人出のビッグイベントとなりました。姫路食博の会場にも多くの来場者が詰めかけ、スタッフは商品の販売に加え、イカナゴの新平くん・新子ちゃんとともにしっかり“兵庫のさかな”をPRしました。

スタッフの皆様、お疲れさまでした。

イカナゴの新平くん・新子ちゃんも活躍したPR活動

多くの来場者があったB-1グランプリ会場

林業をテーマに研究会 ～兵庫JCCが多可町で開催～

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）では、毎年、研究・交流会を開催しています。国連が定めた「国際森林年」にあたる今年は、森林・林業をテーマに多可町加美区にある北はりま森林組合で開催し、県内各地から農業・林業・水産業・生協等の関係者ら合わせて約50名が集まりました。

はじめに、北はりま森林組合 橋詰雅博常務が講義を行い、国産木材価格の下落、人件費増大に加え、高齢化が進んでいること、また、危険を伴う作業が多く後継者がなかなか育たない現状を話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

参加者は、このあと間伐作業の見学を行い、実際に木を切る現場を目の当たりにし、その技術や倒れる木の迫力に声をあげていました。昼食をはさんでからは、木質チップの工場で間伐材が燃料として加工される行程を見学、またシイタケの菌の打ち込み体験や、機械によるまき割り、木工体験などをし、参加者は林業に対する活動に理解を深めました。

倒れる木の音は迫力がありました

木質チップは宿泊施設やプールに利用

見事に割れた･･･か？

来年にはシイタケが出ますように…

会場の様子

第3回里海創生シンポジウム
「瀬戸内海の未来を考えるシンポジウム」開催

㈶兵庫県水産振興基金

適切な人手を加えることにより、生物多様性と生物生産性が高くなった沿岸海域のことを“里海”と呼び、その里海づくりの輪を広げる活動を行っているNPO法人環境創生研究フォーラム（小林悦夫理事長）は、11月26日（土）に神戸市内において「瀬戸内海の未来を考えるシンポジウム」を開催し、JF兵庫漁連 山田隆義会長をはじめ多くの漁業関係者が参加しました。3回目となる今年は、里海の概念から実践までの方向性を示す目的で「みんなで進める里海づくりとは？」をテーマに開かれました。

最初に、里海の提唱者である九州大学 柳哲雄教授による基調講演「里海づくりの展開策」では「漁業者は“海を汚さない”、“豊かな生態系を保全する”という意識はあるが、その数は総人口の0.2%に過ぎず、残り99.8%の非漁業者も同じように沿岸海域を大事な場と考える意識を持ってもらえるかが課題である」と提起があり、瀬戸内海を豊かで美しい海にしていくために現行の特別措置法を改正することも目標にしていると話されました。

次の近畿大学 日高 健教授は「国際的な里海の評価と展望」の講演を行い、日本の漁業権制度は里海の概念に合致するとの見解を示した上で、2006年頃に里海の定義が固まって以来、中央省庁の行政計画で使われたり、海外の学会でも取り上げられる機会が増えたりし、里海の概念が拡大しつつあること。一方、三重県 英虞湾での行政主導による沿岸域の管理手法が成果を上げているが、瀬戸内海は広域のため、複数の取組みをネットワークしていかなければならない等の意見を示されました。また、途中から兵庫県 井戸敏三知事が参加され、「瀬戸内海を豊かで美しい海に再生するための新法が必要であり、その理論的バックボーンが里海である」と認識を示されました。

柳教授の講演

パネルディスカションでは、干潟、藻場の再生策や里海づくり活動の事例発表がありました。会場の山田会長から「漁業サイドでも新法制定に向けて努力している。豊かな海に再生するために、多くの人々の取組みをお願いしたい」との発言があり、柳教授は「今後も継続して里海づくり活動をすることが必要である」と意見を総括されて終了しました。

平成23年度 兵庫県水産系統団体役職員OB会総会

JF兵庫漁連

去る11月27日（日）ホテルキャッスルプラザに於いて、平成23年度兵庫県水産系統団体役職員OB会総会が32名出席のもと開催されました。

開会にあたり、昨年度の一年間に亡くなられた会員に対して出席者一同黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。

その後、藤原副幹事長が、「平成23年の出来事を振り返ってみると、東日本大震災では我々の仲間を含む多くの方々が犠牲になり、また、台風12号による豪雨により紀伊半島が大きな災害をうける等、自然を守りぬく重要さを改めて痛感しているところです。」と挨拶されました。続いて、来賓のJF兵庫漁連山田会長から「中之島の水産会館から移転して3年目となりましたが、諸先輩方が中之島で築かれた歴史を継承し、明石の水産会館で新たな歴史を築き始めております。OBの方々には、是非、気軽に水産会館にお立ち寄り下さい。」と祝辞を述べられました。

壽幹事長が欠席のため、規約により藤原副幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案のとおり承認され、また、幹事の改選については、現幹事の壽進氏（幹事長）、藤原力氏（副幹事長）、松本英雄氏（会計担当幹事）、山脇日出男氏（幹事）、田尻重孝氏（幹事）、岡本敏夫氏（幹事）の6名全員が再選されました。

総会に引き続いて、JF兵庫信漁連の山田会長の乾杯の音頭により懇親会が始まりました。ビール瓶を片手に、皆思い思いの場所で近況報告や思い出話、後輩へのアドバイス等、和気あいあいとした雰囲気の中で歓談がすすみました。そして、宴半ばを過ぎたころからカラオケも登場し、会場は大いに盛り上がり、あっという間に閉会の時間となりました。

最後に田尻幹事が閉会挨拶を述べ、万歳三唱により懇親会は終了いたしました。

「虹の仲間で森づくり」～12月10日(土)に グリーンピア三木で開催！～

JF兵庫漁連

漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育んでいくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間で森づくり」は、今年で5回目となります。この日は県下青壮年部、女性部などJFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者など約170名が集まり、森林の除伐活動に汗を流しました。

厳しく冷え込んだ当日、早朝にもかかわらず県下各地から参加者が集まりました。はじめに、森と海のつながりについて学んだあと、しっかり準備運動。19班に分かれたヘルメット姿の参加者は、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りました。森には大きく伸びたシダ類や、常緑樹がたくさんあり、参加者は周囲に気を配りながら次々と木を除伐、子どもたちもハサミなどを使ってお手伝いをしていました。その甲斐あって、作業を終えたあと、森に太陽の光が差し込む感動的な光景を目にし、皆さんは満足そうでした。

このあと、県内の水産物のバーベキュー、カキの味噌汁、タコ飯が振る舞われ、参加の皆さんは楽しい昼食交歓会を過ごしました。

森の中で“木を切る”という作業なのですが、たいへん“おもしろい”という感想が多く、何度も繰り返しご参加頂いている方が多い活動です。皆様も一度、是非参加してみてください。

次々と森の奥へ…

切り始めると楽しくなってきます！

カキの味噌汁が振る舞われました

漁青連のメンバーもがんばっています

親子で「飾り巻き寿司づくり」～兵庫県海苔問屋協同組合の取組み～

JF兵庫漁連広報部

ノリの消費拡大を図ることを目的とした「親子で飾り巻き寿司づくり」イベントを、兵庫県海苔問屋協同組合（組合長：松谷 晃・松谷海苔㈱社長）はJF兵庫漁連SEAT-CLUBとのコラボレーションにより11月13日（日）に兵庫県水産会館で実施しました。

今年で2回目となるこのイベントには15組の親子（41名）が参加し、ビデオにより兵庫ノリの生産過程を学び、家庭用オーブントースターを使ったノリ焼き体験を行った後、飾り巻き寿司づくりに挑戦しました。

参加者は、JF兵庫漁連 魚食推進室の隅谷主任の手本を見たあと、親子一緒になっての“飾り巻き寿司”づくりを体験しました。最初は慣れない手つきの皆さんでしたが、少しずつコツをつかみ、立派なカエルの形の飾り巻き寿司を次々に完成させました。出来たお寿司は、用意された味噌汁と一緒に試食し、「美味しい！」との声が聞かれました。最後には飾り巻き寿司講座の修了証が手渡され、親子で楽しいひと時を過ごしてもらえたようです。

上手に出来ました

兵庫海苔問屋協同組合とJF兵庫漁連SEAT-CLUBでは、これからも様々な企画・イベントを通して、ノリの消費拡大に努めていきたいとのことです。

隅谷主任の手さばき

飾り巻きに挑戦！

おかえりなさい！ ～県立香住高等学校の実習船「但州丸」が帰港～

兵庫県立香住高等学校 海洋科学科第２学年の生徒19名を乗せた実習船「但州丸」は、マグロ延縄漁業など所定の実習を終え、船籍のある神戸港に帰港しました。

12月5日（月）の帰港式は、神戸港中突堤に停泊中の「但州丸」の前で行われ、学校、水産業界関係者や生徒の保護者など約60名が集まり、実習生たちの労をねぎらいました。来賓として出席されたJF兵庫漁連 山田隆義会長は「水産業を取り巻く環境は大変厳しいが、漁業と豊かな海を次世代に引き継いでいくのが我々の使命である。その担い手がこのように育ってくれていることを心強く思う。実習での経験は、今後の人生で糧となるものであり、これからも頑張って頂きたい。」と挨拶をされ、実習生の代表に記念品を手渡されました。

49日間の遠洋実習を終え神戸に帰港した「但州丸」

今年は、10月19日（水）に香住港を出港。マグロ延縄漁業実習を行いながら、新たな取り組みとして韓国 釜山の国立水産科学院、国立釜山海事高等学校を表敬訪問し親交を深めました。ここから、沖縄、パラオ、そして神奈川県三崎漁港で漁獲物を水揚げした後、帰港しました。また、実習において獲れたメバチマグロ等は、5日に実習生も参加して県庁前で販売され、1時間で売り切れるほど好評でした。なお、翌6日に出港した但州丸は8日（木）に香住港に無事到着し、行程をすべて終えました。

山田会長に敬礼する実習生たち

「漁師さんのおさかな教室」好評でした!! ～今年は明石市の土山保育園で～

元気な挨拶で始まった「おさかな教室」

“魚をもっと食べてもらおう”と摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角生馬会長）では「おさかな教室」を開催しており、今年はその3回目。場所は明石市の土山保育園で、園児の親子12家庭（約30名）が参加し開催されました。

当日は漁青連のメンバーに加え、県・系統団体スタッフが加わり、料理の下ごしらえやタッチプールの準備を進めた後、園長先生の声と共に子供たちの元気な挨拶でスタート。料理教室では、まずアジの捌き方の講習があり、講師となった大角会長の包丁さばきに参加者は注目。アジの内臓を出したり、頭を落としたりする度に子供たちから「わぁ～！」、「きゃぁ～！」の大合唱！お母さん達は大角会長の軽快なおしゃべりにうなずく場面もしばしば。続く調理実習では、親子でアジの「お魚ハンバーグ」に挑戦しました。なかには包丁を初めて持つ子どももいましたが、スタッフの手伝いやお母さんの活躍もあり、皆さん、無事に完成させていました。

次に、教室の外に設置されたタッチプールにアジ、イイダコ、エビなど沢山の魚が、また、ガザミ釣りのプールのたくさんの大きなガザミに、子どもたちは少々興奮ぎみ。最初は怖がっていた子どももいましたが、だんだん楽しくなったのでしょう、最後には見事に手づかみしていました。

最後に、調理したお魚ハンバーグとタコ飯、ガザミの味噌汁も添えて試食した後、子供たちから魚に関する質問が次々にあって終了しました。参加のお母さんは、「普段魚を食べない子どもが、お魚ハンバーグを残さず食べた」と驚いた様子で話されるなど、子ども達やお母さん方に大好評の教室でした。

上手に捕まえました！

大角会長の包丁さばきに皆さんの視線が…

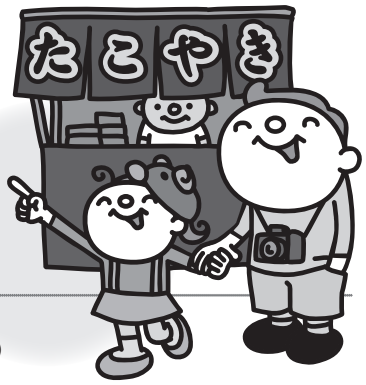
調理を楽しんでいますね

“是非ご家族揃ってお越しください！”

淡路農林水産祭を開催します！

兵庫県洲本農林水産振興事務所

淡路における農林水産の技術改善及び経営の近代化を促進し、
農林水産業の発展に寄与することを目的としたこの祭りは今回で第49回を迎えます。
当日は、農林水産物豊穣豊漁祈願祭や農林水産物の展示即売会等が開催されます。
また、今年の豊作を占う粥占祭も実施されます。
是非、御家族そろってお越しください。



日時 平成24年1月15日（日） 10:00 ～ 15:30

場所 兵庫県淡路市多賀740　伊弉諾（いざなぎ）神宮境内

問い合わせ先 淡路農林水産祭実行委員会事務局
（兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所　農政振興第2課）
TEL：0799-26-2099　FAX：0799-22-1443

Column

TPP交渉参加は一次産業の崩壊を招く！！

貿易開国で日本の食料安保は外国に委ねるのか？安易な妥協を許すな…。

先月12日に行われた日米首脳会談で野田総理はTPP(環太平洋連携協定) 交渉参加についてどこまで発言したのだろう？米政府発表では、オバマ大統領との会談で総理は「全ての物品及びサービスを貿易自由化交渉のテーブルにのせると言った」と報じ、日本政府は「そんなことは言ってない」と火消しに躍起だったとか。真偽のほどは別に米政府は「我々の解釈で書いている」と日本の訂正要求を一蹴したという。TPP締結を急ぎ中国を牽制したい米政府の戦略構想か？

昨年来、我々漁業者は政府のTPP対応に不信感を募らせるばかりだ。我々の認識は、TPPと、これまで日本が進めてきたFTA(自由貿易協定) やEPA(経済連携協定) は根本的に違うことだ。FTAは二国間あるいは複数国間の協議でもコメなど重要農産物は除外されてきた。これがTPP協定になると重要品目の除外は殆ど認められず、関税撤廃がほぼ全面に及ぶだろう。それだけに日本市場の開放、関税の全面撤廃となれば、国民食料の安定供給を担う農林漁業者は経営的に廃業に追い込まれる恐れもある。これからの展開は不透明だが、はっきりしていることは、農漁業など一度基盤を崩し、担い手を失えば、再起に膨大な時日を要すということであり、この空白は国家国民の命取りになる？我々は、減産補償とか所得補償など目先の論理に惑わされず、慎重に対応する必要がある。

資源をもたない我が国は中国のレアアース禁輸問題や原発代替えエネルギー確保難、経済成長した中国・インドとのマグロ買い負け等で一喜一憂している。東日本大震災やタイの洪水で様々な国で企業活動が停止したように、世界経済はそれぞれが何処かで繋がっているというものの、一朝有事に際して食料動脈線を絶たれたとき、資源をもたない国の惨めさは想像に難くない。食料は命の糧である。国民生活の全てを、命までも、外国に依存し委ねて良いものか？世界的に食料安保が国家課題とされている昨今、四方を海に囲まれた島国日本の食料安保は確保されるのか？

先の日米首脳会談結果は、TPP＝全ての物品について貿易自由化＝関税撤廃につながる。この解釈は重大で、国会でも議論されたが中味は空虚で何の実もなく期待はずれに終わった。うがった見方をすれば、政府国会内に輸出産業優先、諸分野の市場開放が国民生活の向上に繋がるからTPP交渉を早く、という政治判断があるのかも。最近の野田総理の発言や各種報道からも、なし崩し的にTPP交渉参加を前提に国内世論を牽引しているように感じられる。例えば、12月2日日米財界人会議で「米国などが進めるTPP交渉への日本の参加について協力して後押しする」と共同声明を発表、あるいは野田首相がベンチャー企業経営者ら経済団体の会合で挨拶し、TPP交渉参加に関し「不退転の覚悟でやる」と強調したという。これら記事は全て小さく掲載されており、読者はいつの間にかTPP交渉参加を是とする意識に、外堀を埋められてしまうのではないか。

12月6日の新聞では、政府、与党の社会保障と税の一体改革に関する議論がはじまったとしながら「世論が敏感に反応する「負担増」(消費税10%へ)の導入は重い課題で、TPP交渉の参加問題以上に激しい議論となるのは避けられない」と表現。政府国会も、マスコミまでも、身近な消費税問題は重いが、TPPや食糧自給率の問題は国民の関心も低い。農漁業者の反対など、満員電車で最初は歪な立ち位置でも、時間の経過と揺れでいつの間にか正常の立ち位置が確保されているようなもので、そのうち、世論も理解するだろうという暗黙の計算があるのか？ TPP交渉参加は国益の損益分岐点から判断されるなら、企業主導で開国を論じる政府国会に対し、我々は食料安保の観点から情報発信を重ね、国民世論を喚起し、足腰の強い日本を目指したい。(U/T)

特産イチジクの加工品試食会

JA兵庫みらいは、㈱松原製餡所と小野特産のイチジクを使った加工品の開発に取り組んでいる。10月18日には県農業会館で試食会を開き、関係者ら17人がイチジク餡を使ったパンやどら焼き、水まんじゅう、ようかんなど、８種類の試作品を試食。改善点や具体的な販売方法など平成24年度の商品化に向けて意見を交わした。

イチジクを使った加工品の開発は、中小企業者と農林漁業者が連携して行う研究開発や販路開拓などの事業を支援する「ひょうご農商工連携ファンド事業」の助成金を利用。JAと老舗製餡業者が連携体となり、未活用の野菜や果物を活用した餡商品の開発に取り組んでいる。同JA管内では、特産イチジク「おのこまち」を小野無花果部会の16人が栽培している。イチジクを年間通しておいしく味わってもらおうと、同社と協力して、本来の甘みと風味を生かした餡を完成させた。

同JAの後藤健次郎代表理事組合長は「地域や農業の活性化のために、特産品の開発は重要なこと。連携を図りながら、農産物を生かした加工品を作っていきたい」と語った。

試食会であいさつする後藤組合長

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

生協祭「あいたくて都市生活」開催！

生活クラブ生活協同組合都市生活では、10月23日(日)、神戸サンボーホールにて参加生産者68団体を迎え、生協祭「あいたくて都市生活」を行いました。前日の大雨も朝にはやみ、暑くもなく寒くもなく絶好のお祭り日和のなか、開催いたしました。

今年のテーマは「つなげよう絆」。

東日本大震災、台風12号による紀伊半島豪雨災害と、地域とのつながりが破壊される自然災害が続いています。

今こそ私たちは絆を大切に皆でつながり、この困難な状況に立ち向かわなければなりません。そのような思いを込めたテーマです。

参加者全員で手をつなぎ、振り上げ、「つなげよう絆！」の大合唱で生協祭をスタートしました。

今年も、たくさんの生産者と組合員で賑わい、熱気のある一日となりました。

会場の雰囲気

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

数える言葉

◆新聞の隅に「朝のひとひねり」という小さな囲み広告があった。漢字の読み方や反対語を問うたり、国の首都を聞いたり《何て数えるの?》という問いも多く出題された。カステラ・ゲレンデ・宴・ダムなど、日頃は縁遠い単位は即答ができず大いに困惑した。ものを数える場合、助数詞や単位が必要だが、正しく数えるには其れなりの学習がいる。新聞用語の手引き資料に、助数詞一覧表があるが先の問いかけの物は載っていない。一体、何と数えたらいいのだろうか。図書館で検索したら『数え方の辞典』があり、大いに役に立った。

◆最近、「年齢が一個上」とか「短歌２つ」などと聞かされて、数え方もかなり乱れた表現があると思った。助数詞の種類が多いことは日本語の特質だが、複雑な使い方は少し整頓し、もっと平明にすべきだと思う。乗り物の数は、道路を走るものは「台」、線路を走るものを「両」、飛行するものは「機」で数え、地面に据えてある乗り物は「基」となる。船舶は艘・隻・艇があって使い分けが実に複雑だ。「東京ドームで〇杯分」というのは、どれ位の容積をいうのかと調べると、建築面積四六七五五㎡（一万四千坪強）、容積は約百二十万立方米とある。大きなものを表す時には、重宝する便利な施設であるようだ。

◆握り鮨は１カン・２カンと数えるが、それが握り一個をいうのか二個なのか。江戸時代の屋台で、穴あき銭を紐で括った１貫分が、握り鮨２個ほどの重さだった所から１貫鮨と称したそうだ。この鮨屋が、小さく分けて握ったのが、今の握り鮨の原型であるという。そこから２個で１カンと呼び、貫の字を充てたらしい。「個」がなまってカンとなり貫を充てたとする説もある。本来は２個で１貫なのだが、最近は１個を指すように変化して来ている。軍艦巻きの巻もカンと呼んでいる。回転鮨では、何個が載っていても１皿と数えている。

◆行李／ひと梱（こり）菅笠／１蓋（がい）など、独特の数え方だったが、日常から品物が姿を消すと、数え方も自然に消滅する。姿を消す物がある一方では、新しい日用品も登場する。電卓・パソコン・デジカメ・携帯電話など、これらは全て「台」で数えられ万能型の助数詞といえる。次に登場するのは何か、それに対応できる助数詞はあるのか。移り変わりの激しい時代である。豊かだった数え方が消滅して行き、日本語も変化を余儀なくする。新しい数え方は、簡単で包括的なものへと代わってしまう。国際的な取引単位もメートル法で統一され、更に再統一が検討されている。これは別の機会に考えたいと思う。

鴎の群れ

大輪田塾だより

兵庫県漁業概要とJF兵庫漁連の事業概要

７期生をはじめて迎えた11月は、本県水産業の現状を全体的に知ってもらうため「兵庫県の漁業概要について」と「JF兵庫漁連の事業概要について」の２講義が行われました。

「兵庫県の漁業概要について」は県水産課 小林孝司副課長から、本県の漁業の特性から現在の施策まで幅広い内容で行われました。また、「JF兵庫漁連の事業概要について」ではJF兵庫漁連 突々 淳参事から県漁連の事業概要と、現在、力を入れている環境再生・魚食普及分野での取り組みについて講義が行われました。どちらの内容も幅広い内容で分かりやすく解説がなされ、塾生はさかんに質問をしていました。また、７期生ははじめての講義で、授業の雰囲気などを実感したようです。

小林副課長の講義

突々参事の講義

次回の大輪田塾は平成24年1月24日（火）で農水産物の輸出入と漁港についてです。

表紙の言葉

「漁師さんのおさかな教室」

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会の魚食普及の取組みは、親子で魚の調理を体験するもので、今年で3回目となりました。切り身でしか魚を見たことがない子どもが増えているといわれるなか、調理と併せて“生きた魚”を目にしてもらうことも大事な魚食普及活動なのです。子どもたちのお母さんと一緒に体験した思い出が、いつしか世代を超えて引き継がれていく…。こうした活動が将来、きっと実を結ぶことになると期待しています。

「食卓にもっと魚を届けたい!」これは我々、水産業に携わる者の願いです。

拓水 TAKUSUI 12 December

発行：財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336